

第43期 中間報告書

自 平成22年2月1日 至 平成22年7月31日

Shape your future

ITエンジニアリングで未来をつくる

Shape your future

ITエンジニアリングで未来をつくる

経営理念

ITエキスパート集団として成長を続け、
顧客・社会に貢献します

CONTENTS

- 2 株主の皆様へ
- 3 第43期第2四半期累計期間の主な活動
- 5 注目する事業の解説
- 6 財務ハイライト
- 7 営業の概況／セグメント別の概況（連結）
第2四半期連結財務諸表（要約）
- 8 第2四半期連結貸借対照表／第2四半期連結損益計算書／
第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書
- 9 株式の状況
- 10 会社の概要

株主アンケートへのご協力をお願い

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施しています。

本書裏表紙にアンケートサイトへのアクセス方法が記載されております。ご協力よろしくお願いたします。

この冊子においては、将来の見通しに関する記述がさまざまな表現でなされています。その見通しは社会の変化や不確実性に左右され、実際の結果が異なることも考えられます。これらの将来に関する記述に過度に依存なされないようお願いいたします。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、第43期第2四半期連結累計期間（平成22年2月1日から平成22年7月31日まで）の決算が確定いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

日本経済は緩やかな回復基調にあるものの、急激な円高を背景とした先行不透明感から、各社のIT投資意欲は依然として低調に推移しており、製造業の空洞化に伴う開発案件の減少や、いっそうの原価低減のためのITシステム維持コスト見直しなど、情報サービス産業界は各社とも収益構造の変革を求められる大変厳しい環境下にあるといえます。

こうした状況のもと当社グループは、さらなる成長に向けた礎を築くため、受託開発を通じて培った高い技術力を集大成し、サービス事業を今後の事業の柱とすべく、さまざまな取り組みを開始いたしました。

具体的には、高度な運用システムをベースとした「データセンターサービス事業」の強化や、デジタル製品の安心安全をサポートする「第三者検証サービス事業」の拡大、さらには、生産物流分野の効率化に繋がる三次元シミュレーションソフトウェアRaLC®（ラルク）など、当社オリジナル製品を基盤とした新サービスの展開をスタートさせ、新規顧客の開拓にも注力しております。

今後は、これらの活動を国内外でさらに推進し、株主の皆様のご期待に沿うよう、グループ一丸となって努力してまいります。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は204億6千万円、前年同期比20億4千5百万円の減となりましたものの、経常利益は6億9千6百万円、前年同期比14億6千9百万円の増、四半期純利益は1億2千8百万円、前年同期比14億6百万円の増となりました。

中間配当金につきましては、諸般の情勢を考慮して、1株につき5円とさせていただきます。

当社グループは、企業活動のインフラとして必要不可欠となっているITを、お客様のニーズに合わせながら魅力ある形で提供できるよう役員・社員一同、高いプロ意識をもって何事にも取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



代表取締役会長

岩崎 宏達



代表取締役社長

新野 和幸

TOPICS

2010.6.28 ▶ 韓国企業emFrontier社とRaLC®事業で業務提携

近年、韓国、中国をはじめアジア市場の成長はめざましく、生産から物流までのインフラ整備が急がれています。今後、この需要が拡大することを予想し、当社は6月28日、韓国企業のエムフロンティア社 (emFrontier, Inc.) と三次元シミュレーションソフトウェア「RaLC®」の販売代理店契約を締結しました。両社協業のもと、韓国市場における生産物流分野の業務効率向上に向けたITサービスの提供を進めてまいります。



2010

2月

3月

4月

5月

2010.4.22 ▶ 宮崎太陽農園落成式

4月22日、当社が出資する農業生産法人 宮崎太陽農園の落成式が執り行われました。同農園は今後市場の拡大が予想される農業のIT化推進に対し、昨年9月に宮崎県企画の「宮崎発・大地を活かす農商工連携ビジネスモデル創出事業」の第一号事例として承認を受けて、取り組みを開始したものです。落成式には、宮崎市長をはじめ、関係者の方々にご出席いただき、その模様は地元のテレビや新聞で取り上げられました。



2010.5.31 ▶ 宮崎県口蹄疫被害に対する義援金の寄付

今年4月、当社の事業と縁の深い宮崎県にて大規模な口蹄疫被害が発生いたしました。そこで、翌5月に宮崎県の口蹄疫被害により影響を受けた多くの畜産農家の方々、および地域経済復興を支援するため、義援金を宮崎県（宮崎県口蹄疫被害義援金）へ寄付いたしました。今後も、当社は継続的に地域・社会貢献活動に取り組んでまいります。

EVENTS

2010.5.12~14 ▶ 国内最大級の組込み総合展示会に出展

5月12日（水）から14日（金）の3日間、東京ビッグサイトで開催された、国内最大級の組込み機器の総合展示会「第13回組込みシステム開発技術展」にPROVEQサービス事業部が出展いたしました。本展示会は、来場者数約122,400名と過去最大の規模となり、当社のブースも製造業を中心とした数多くのお客様から大変注目をいただきました。会場では同事業部が展開する、診断サービスや検証サービスなど、計4つの製品・サービスを展示し、紹介いたしました。



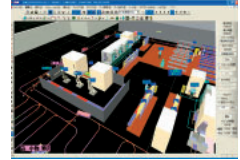
2010.7.21 ▶ メディアエクス チェンジ社と事業 譲渡契約締結

7月21日、メディアエクスチェンジ社との間で、同社の営むインターネットデータセンターサービス事業の譲渡契約を締結いたしました。

詳しくは、P.5データセンターサービス事業をご参照ください

2010.8.1 ▶ 生産工場の効率化支援ソフトウェア「RaAP®」の提供開始

8月1日、当社独自の3Dシミュレーション技術を活用して、生産工場の効率化を支援するソフトウェア「RaAP®（ラープ）」の提供を開始いたしました。「RaAP®」は仮想空間上で、生産工場全体および生産ラインをリアルに再現し、生産現場の人の動きや材料の流れ、生産設備の配置や動作など、実際の工場の稼動状態を再現するソフトウェアです。また、さまざまな分析機能によって課題を見える化し、生産工程の全体最適化を強力に支援することで、製造業のお客様における生産工程の効率化を実現いたします。



6月

7月

8月

2010.6.13 ▶ この夏話題の、小惑星探査ミッションに当社が一役

6月13日、小惑星探査機「はやぶさ」がさまざまな技術的なトラブルを乗り越え、7年、60億キロメートルにもおよぶ苦難の長旅を終えて帰還、世界中の人々に感動を与えました。「はやぶさ」のミッションは、小惑星「イトカワ」から惑星表面のサンプルを持ち帰ること、イオンエンジンによる星間航行など、世界でも初の試みが盛りだくさんでした。この世紀のミッションにおいて、当社はITベンダーとして「はやぶさ」プロジェクトの管制ネットワーク運用を支援いたしました。

2010.8.3 ▶ 第三者検証サービス PROVEQ®に新サービス追加

8月3日、第三者検証サービスPROVEQ®（プロベック）のメニューに、新たにドキュメントのあいまい度を診断し、推敲を促す検証ツール「ClearDoc™（クリアドック）」を追加いたしました。「ClearDoc™」は、製品開発やソフトウェア開発の設計段階で作成される要件定義書や仕様書など、日本語で記述されたドキュメント類の品質向上を支援するツールです。開発の初期段階で発生する、文章のあいまいさに起因する確認作業や作業の手戻りによる生産性低下などの問題解決を支援します。



2010.6.23~25 ▶ 日々の業務改善策「ものづくりソリューション」を紹介

6月23日（水）から25日（金）の3日間、東京ビッグサイトにて「第21回設計・製造ソリューション展」が開催され、当社からは「日々の業務にシミュレーションを活かす」をテーマに、自社製品とサービスから構成される「ものづくりソリューション」を紹介いたしました。当社ブースでは、PCによるデモンストレーションを中心に、シミュレーション技法を活かした生産計画の事前検証から、実績データの収集・分析による生産性や稼働率向上策まで、一連の現場改善策を紹介いたしました。今年の展示会場は、最新の「ものづくり」支援の製品・サービスが目白押しで、目的意識の高いお客様と出展社スタッフの熱気で、大盛況の3日間でした。

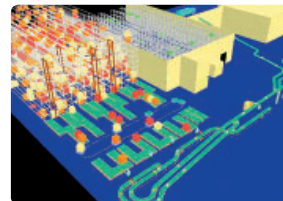


RaLC®事業

■ 生産や物流業務の効率を高め、ベテランのノウハウをコンピュータに蓄積

当社が得意とする製造業向けITサービスの基盤となっているのが、「ものづくりソリューション」と呼ばれるサービスです。ものづくりソリューションは主にシミュレーションによる事前検証とその結果（実績）を収集・分析するソフトウェア製品群、そして導入支援のサービスで構成されています。中でも工場における生産や物流の業務改革を支援する自社開発製品の「RaLC®」は、国内200社を超す企業で導入された実績を持っています。「RaLC®」は生産や物流現場における設備や人員の配置、部材・製品の流れを、シミュレーション技術を活用してアニメーション化したうえで最適化を探るソフトウェアです。出荷計画に合わせて、業務効率を高めるために何をすべきかを仮想空間で繰り返し検証し、これまで

ベテラン社員の勘と経験に頼っていた、現場作業のノウハウをコンピュータに蓄積し、誰もがノウハウを活用できるようにするもので



す。同様にシミュレーション技術を活用して、生産計画から生産準備、生産工程の改善・改革を支援する「RaAP®」、倉庫内の「もの」の位置を把握し、入出庫の効率を向上させる「RaLOCA®（ラロッカ）」、位置情報システムと連携し、「もの」の動きを把握するとともに、動きの実績を分析する「RaFLOW™（ラフロー）」など、「RaLC®」の技術を応用した製品やサービスは、ものづくりソリューションの中核をなす製品として成長を続けています。

データセンターサービス事業

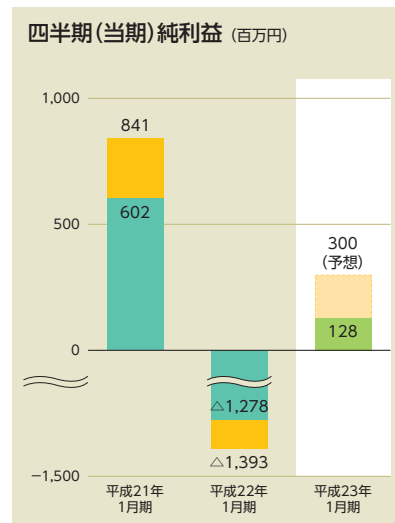
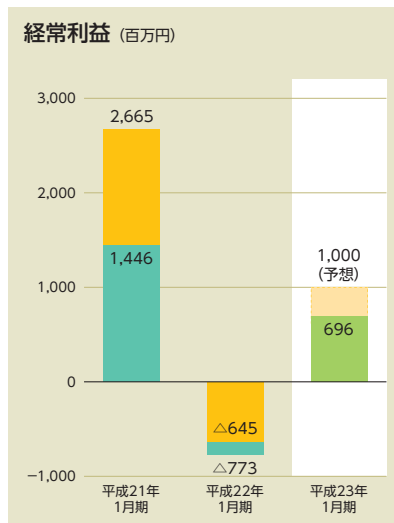
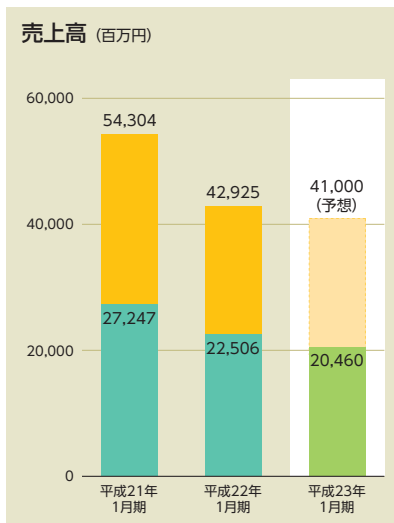
■ 全国6拠点目のデータセンターを東京・池袋に開設

9月1日、メディアエクスチェンジ社のインターネットデータセンターサービス事業を譲り受け、池袋に全国6拠点目となるデータセンター（東京第二データセンター）を開設いたしました。同データセンターでは、これまで提供してきた、ハウジング／ホスティングに代表されるデータセンターサービスに加え、国内最高水準120Gbpsのインターネット回線能力を基盤に、インターネット上で動画を扱うストリーミングサービス市場や、ソーシャルメディア市場、インターネットショッピング市場など新たな分野を開拓し、高品質なインターネット接続サービスを提供いたします。当社は現

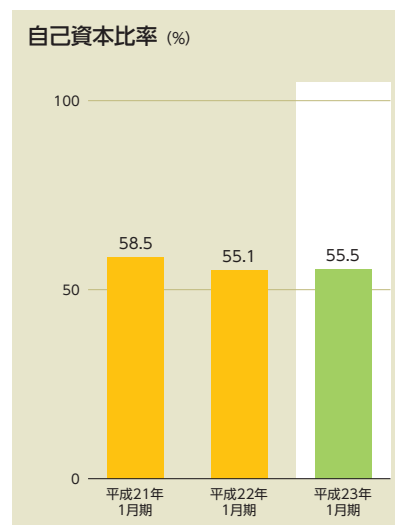
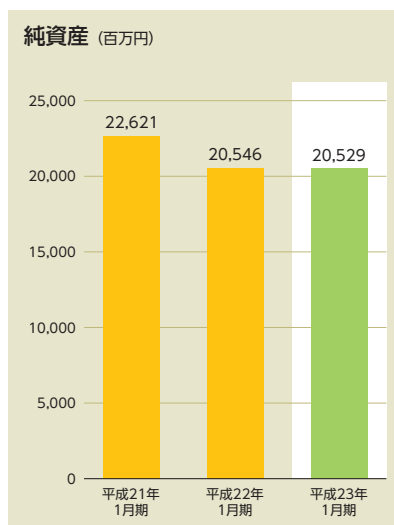
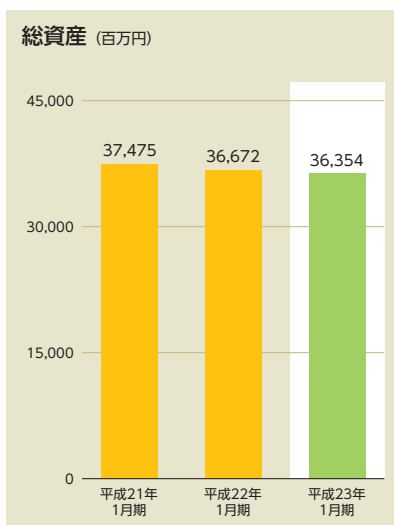
在自社データセンターを活かして、クラウドコンピューティングに必要なIT環境の構築サービスや、企業がクラウド環境を導入する際のコンサルティング、社内情報システムのクラウド環境への移行、移行後の保守・運用サービスまで、ワンストップで提供しています。今後は、データセンターを活用したクラウドサービス事業「BizVision™（ビズ・ビジョン）」の強化・拡充を図ってまいります。



■ 第2四半期累計 ■ 通期



■ 第2四半期累計 ■ 通期



営業の概況／セグメント別の概況（連結）

当第2四半期連結累計期間における情報サービス産業におきましては、引き続き顧客の情報化投資意欲の立ち直りは鈍く、本格的な回復基調には至らず依然として厳しい環境が続いております。このような情勢の中、当社グループは新中期経営計画の重点施策「競争力強化」・「経営基盤の改善」・「シーイーシーマインドの醸成」に着手いたしました。

具体的には、競争力強化を図るため既存ビジネス分野の選択と集中を図り、「医療」「環境」「カーエレクトロニクス」「物流」「農業」など今後の成長分野にSE戦力を再配置しIT技術の専門特化を推進いたしました。経営基盤の改善につきましては、ソフトウェア受託開発事業のノウハウを自社独自サービス商品として展開することや、検証サービスをハードウェア商品から各種ビジネスシステムまで拡大するなど、事業のサービス化・ストック化に取り組みました。シーイーシーマインドの醸成は、社員一人ひとりが高い倫理観・優れたIT技術を持つ集団を目指して、人事諸制度の見直し・IT資格取得制度の充実・セキュリティ教育の強化を継続的に実施いたしております。

当社グループの業績におきましては、昨年10月の株式譲渡により、双日システムズ（株）が連結対象から外れた影響から、売上高は204億6千万円、前年同期比20億4千5百万円の減となりましたものの、利益面におきましては、不採算案件の処理が終了したことに加え、人件費の圧縮などコスト削減施策を徹底した結果、営業利益は6億7千5百万円、前年同期比15億2千9百万円の増、経常利益は6億9千6百万円、前年同期比14億6千9百万円の増、四半期純利益は1億2千8百万円、前年同期比14億6百万円の増となりました。



プログレス事業

主要顧客である製造業の業績は回復しつつありますが、IT投資の抑制は依然として続いているため、売上高は103億9千1百万円、前年同期比3億6千1百万円（3.4%）の減となりました。

プロフェッショナル事業

株式譲渡により双日システムズ（株）が連結対象から外れた影響により、売上高は67億5千万円、前年同期比20億5千万円（23.3%）の減となりました。

プロベック事業

組込みシステムの検証業務の増加や、検証・診断サービスの対象範囲を拡大した結果、売上高は22億9千3百万円、前年同期比2億2千万円（10.7%）の増となりました。

プロセス事業

官公庁向け案件の売上が増加したため、売上高は10億2千5百万円、前年同期比1億4千6百万円（16.6%）の増となりました。

第2四半期連結財務諸表（要約）

第2四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	期	当第2四半期 (平成22年7月31日現在)	前連結会計年度 (平成22年1月31日現在)
(資産の部)			
流動資産		14,858,554	14,627,800
固定資産		21,495,518	22,044,962
有形固定資産		16,566,118	16,783,389
無形固定資産		918,696	1,076,092
投資その他の資産		4,010,703	4,185,481
資産合計		36,354,072	36,672,763
(負債の部)			
流動負債		5,976,397	6,405,442
固定負債		9,847,699	9,720,334
負債合計		15,824,097	16,125,776
(純資産の部)			
株主資本		20,152,191	20,198,227
資本金		6,586,000	6,586,000
資本剰余金		6,415,030	6,415,030
利益剰余金		8,900,124	8,946,137
自己株式		△ 1,748,962	△ 1,748,939
評価・換算差額等		31,373	6,769
少数株主持分		346,410	341,988
純資産合計		20,529,975	20,546,986
負債純資産合計		36,354,072	36,672,763

第2四半期連結損益計算書

(単位：千円)

科目	期	当第2四半期累計 (平成22年2月1日から 平成22年7月31日まで)	前第2四半期累計 (平成21年2月1日から 平成21年7月31日まで)
売上高		20,460,968	22,506,311
売上原価		16,586,229	19,295,596
売上総利益		3,874,738	3,210,714
販売費及び一般管理費		3,198,929	4,064,856
営業利益又は営業損失 (△)		675,809	△ 854,142
営業外収益		192,748	276,639
営業外費用		172,123	195,875
経常利益又は経常損失 (△)		696,434	△ 773,378
特別利益		296,120	83,305
特別損失		297,392	779,518
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失 (△)		695,161	△ 1,469,592
法人税、住民税及び事業税		56,217	77,927
法人税等調整額		504,729	△ 275,585
少数株主利益		5,933	6,743
四半期純利益又は四半期純損失 (△)		128,280	△ 1,278,677

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	期	当第2四半期累計 (平成22年2月1日から 平成22年7月31日まで)	前第2四半期累計 (平成21年2月1日から 平成21年7月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,518,657	1,436,040
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 102,494	△ 1,135,938
財務活動によるキャッシュ・フロー		21,487	△ 856,025
現金及び現金同等物に係る換算差額		144	1,145
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		1,437,796	△ 554,778
現金及び現金同等物の期首残高		3,207,695	5,208,989
現金及び現金同等物の四半期末残高		4,645,491	4,654,211

発行可能株式総数 40,000,000株

発行済株式総数 18,800,000株

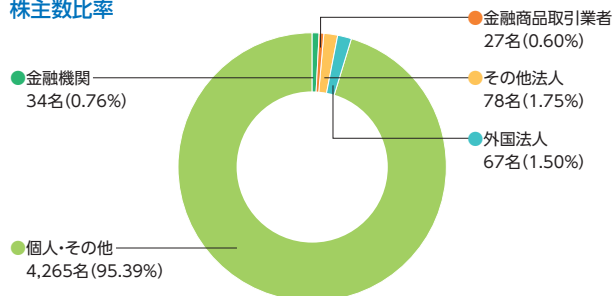
株主数 4,471名

大株主

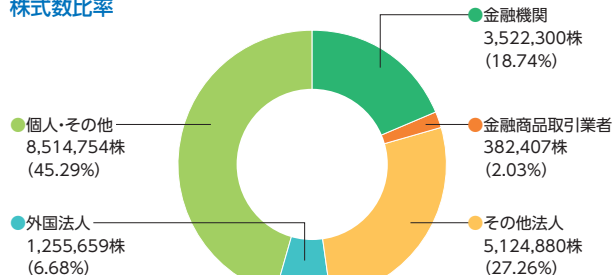
株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
1 ミツイワ株式会社	2,223,600	12.76
2 富士通株式会社	1,680,000	9.64
3 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	986,100	5.65
4 岩崎宏達	938,200	5.38
5 シーイーシー従業員持株会	711,300	4.08
6 日本フォーサイト電子株式会社	465,480	2.67
7 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	390,600	2.24
8 日本生命保険相互会社	266,800	1.53
9 上村真司	214,400	1.23
10 岡三証券株式会社	209,100	1.19

(注) 持株比率は、自己株式 (1,370,684株) を控除して計算しております。

株主数比率



株式数比率



(注) 当社所有の自己株式1,370,684株は、「個人・その他」に含まれております。

株主メモ

事業年度 2月1日～翌年1月31日

期末配当金
受領株主確定日 1月31日

中間配当金
受領株主確定日 7月31日

定時株主総会 毎年4月

株主名簿管理人
特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL.0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部 (証券コード9692)

公告方法 電子公告 公告掲載URL <http://www.cec-ltd.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

商号 株式会社 **シーイーシー**
Computer Engineering & Consulting, Ltd.

設立 昭和43年2月24日

資本金 65億8千6百万円

従業員数 2,693名 (連結)

役員および執行役員

役員

取締役会長 (代表取締役)	岩崎 宏達
取締役副会長	浜島 博臣
取締役社長 (代表取締役)	新野 和幸
常務取締役 (常務執行役員)	柏木 茂
常務取締役 (常務執行役員)	橋村 清海
取締役 (執行役員)	田原 富士夫
取締役 (執行役員)	長田 一裕
取締役相談役	芳武 治
常勤監査役	林 孝重
監査役	長濱 毅
監査役	小島 和人

執行役員

執行役員	木根 博治
執行役員	小田 恭裕

主な事業所

東京 (本社)

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5 JR恵比寿ビル

神奈川 (座間) <さがみ野システムラボラトリ (本店)>

〒252-8567 神奈川県座間市東原5-1-11

神奈川 (川崎) <宮崎台システムラボラトリ>

〒216-0033 神奈川県川崎市宮前区宮崎2-9-16

大分 <大分システムラボラトリ>

〒873-0008 大分県杵築市大字熊野字大平21-1

名古屋

〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-10-29 白川第八ビル

大阪

〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-6-1 新大阪ブリックビル

福岡

〒812-0025 福岡市博多区店屋町8-30 博多フコク生命ビル

その他オフィス

仙台、渋谷区、沼津、富山、金沢、豊田、京都、都城

主なグループ会社

社名	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	事業内容
連結対象子会社			
フォーサイトシステム 株式会社	250	83.2	ソフトウェア開発
株式会社 シーイーシーソリューションズ	100	100.0	ソフトウェア開発、 パッケージ販売・保守
西テレ情報サイエンス株式会社	90	75.0	ソフトウェア開発
大分シーイーシー 株式会社	30	100.0	ソフトウェア開発
株式会社宮崎太陽農園	10	49.0	ITを活用した農畜産物の 生産・販売
シーイーシー(上海)情報系統有限公司	175万米ドル	100.0	ソフトウェア開発
持分法適用会社			
コニカミルタ ビズコム株式会社	300	34.0	情報機器に関連した ITソリューションサービス
上海宝希計算機技術有限公司	60万米ドル	30.0	ソフトウェア開発

ホームページの
ご紹介

<http://www.cec-ltd.co.jp>



株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っています。また、当社の事業活動や動向が紹介されています。当社をよりご理解いただくためにも、ぜひアクセスしてください。

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9692

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5 JR恵比寿ビル
TEL.03-5789-2441(代表)

記載の会社名および商品名等は、一般に各社の商標、または登録商標です。

